

3 - 2 筑波地震観測所における地震回数の変化(2)

Change in Number of Earthquakes Observed at Tsukuba Seismological Observatory (2)

東大地震研究所

岩田孝行, 渡辺政雄, 渡辺唯夫
Takayuki Iwata, Masao Watanabe
and Tadao Watanabe,
Earthquake Research Institute,
University of Tokyo

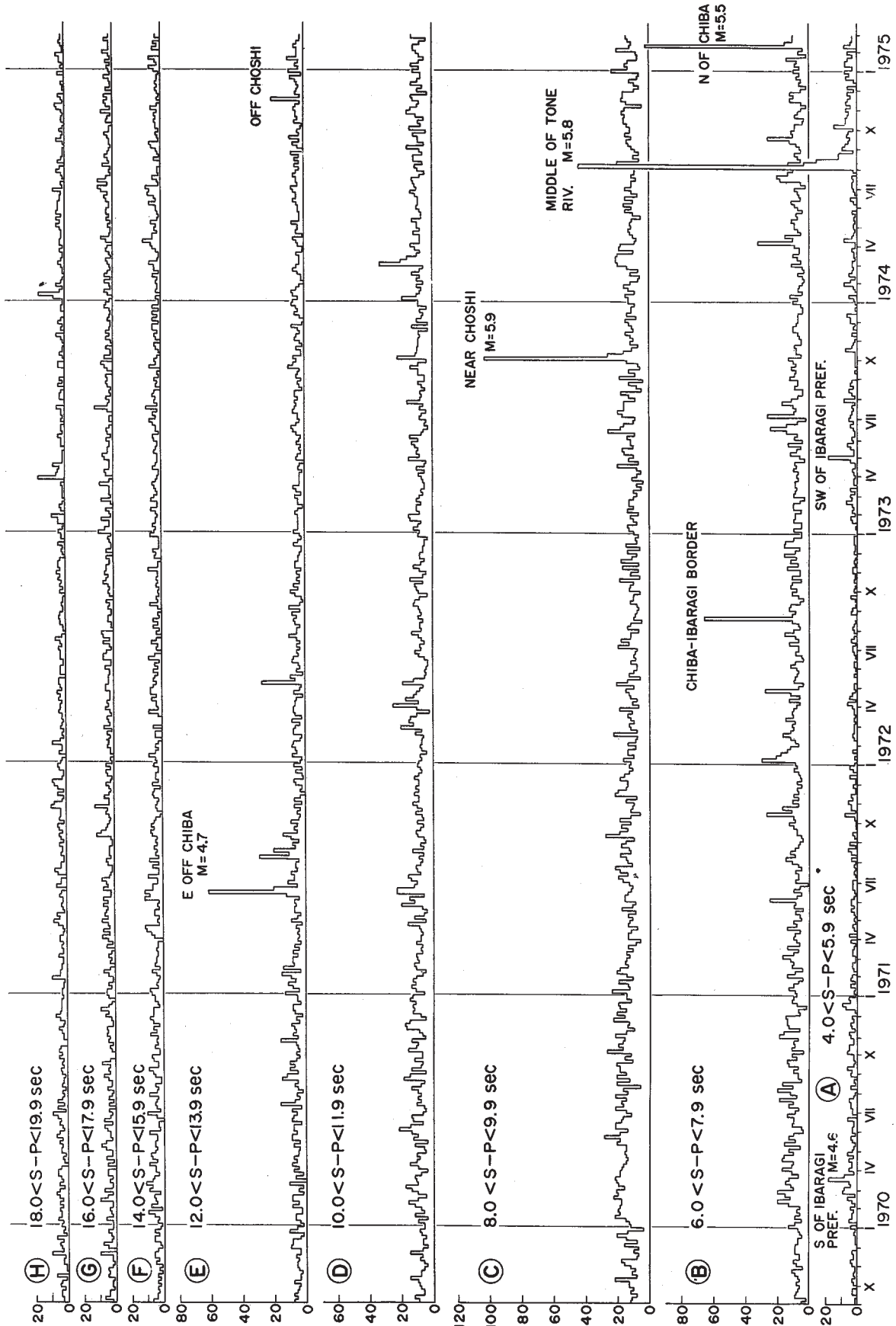
筑波観測所における微小地震の回数変化については, すでに本会報 Vol. 11 (1974) に報告した。第2報の機会から地震回数のとり方を旬別から5日ごとに改めた。

第1回にその回数変化を示す。A から H の各地域 (第1報の第2図参照) において, それぞれの回数変化には, 特に異常は認められないが, B 域 ($6.0 < S - P < 7.9\text{sec}$) のところでは, 時折やや顕著な活動が見られる。これは茨城県南西部および千葉県北部の比較的地震活動の高い地域のものであると思われる。

1974年8月4日03時16分の利根川中流域および1975年2月8日01分41分の千葉県北部の地震について, HES1 - 0.2型 ($V_{\text{max}} = 150,000$) による余震のS - P分布を第2図に示す。これから, それぞれの余震域の長さDkmを $D = (t_2 - t_1)$ によって推定し, 余震面積から坪井 (1967) の方法によりMを決めると, 5.8および5.2程度となる。用いたkの値は河角 (1939) の $9.01\text{km} / \text{sec}$ および $7.64\text{km} / \text{sec}$ である。

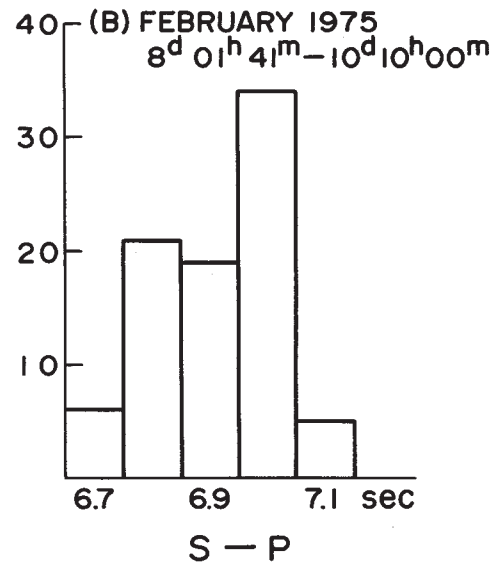
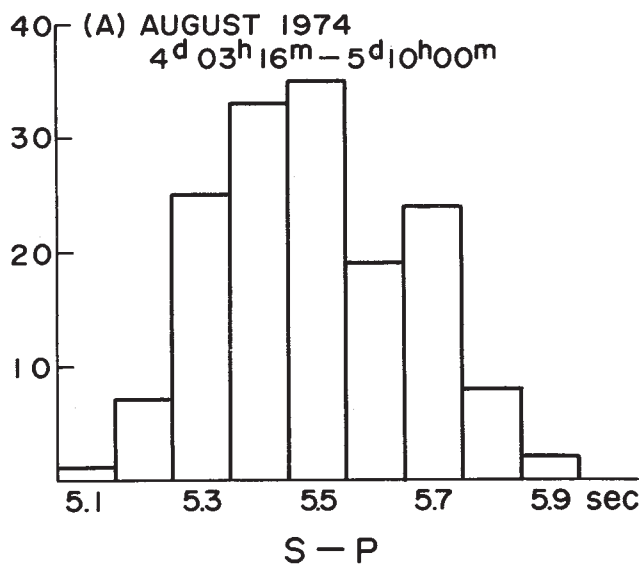
参 考 文 献

- 1) 岩田孝行他, 筑波地震観測所における地震回数の変化, 連絡会報11, 1974
- 2) 坪井忠二, 新地震の話, 岩波新書, 1967
- 3) 河角 広, 初期微動継続時間より見たる関東地方の地殻構造, 日本学術協会報告, 14, 1939



第1図，筑波のHES1 - 0.2型によるS - P時間別の微小地震回数変化

Fig. 1 Frequency of micro-earthquakes in every five days observed by HES 1-0.2 Seismograph ($V_{max}=150,000$) at Tsukuba station, for different ranges of S-P time.



第2図 筑波における余震のS - P分布

Fig. 2 S - P distribution of aftershocks at Tsukuba station.